

2. 事業の概要と成果	
<p>(1) プロジェクト目標の達成 (今期事業達成目標)</p>	<p><b>【プロジェクト目標】</b>  ダン郡ガダワ地区において母子の基礎保健医療サービスへのアクセスが改善する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 期待される成果ごとの達成度については、「(3) 達成された成果」を参照されたい。</li> </ul> <hr/> <p><b>【2年次目標】</b></p> <p><b>① 1年次に供与したヘルスポストの資機材が保健医療サービスに活用される</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 達成。ヘルスポスト運営管理委員会と事業スタッフが実施した2回のモニタリング、および定期的なフォローアップを通じ、1年次に供与した31種114品目が、対象全4か所のヘルスポストにおいて保健医療サービスに適切に活用されていることを確認した。</li> </ul> <p><b>② 研修を受講したヘルスポストスタッフの「出産介助」「院内感染対策」「家族計画」に関する知識が向上する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 一部達成。「院内感染対策」研修を、対象全4か所のヘルスポストで実施し、医療従事者および事務スタッフ計58人（内15人はCommunity Health Unit: CHU 配属）が受講した結果、研修事後テストの正答率が上昇したことを確認した（事前：7.7割、事後：8.8割）。  一方、「出産介助」、「家族計画」の研修については、新型コロナウイルス感染拡大による集会規制で本事業期間中に活動が実施できず、目標達成度の測定には至らなかった。</li> </ul> <p><b>③ FCHV が母子保健啓発活動でファシリテーションを行うようになる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 達成。母親グループの月例ミーティングや、啓発を目的としたイベントなど、事業スタッフによるサポートのもと、母子の健康増進を促す活動に関連して、FCHV が率先してリーダー役を担うようになった。</li> </ul>
<p>(2) 事業内容</p>	<p><b>0. 事業管理に係る活動</b></p> <p><b>0-1. 各レベル行政機関との調整</b></p> <p>下記①～③の各レベルで諮問委員会の調整会議を開催し、事業地における新型コロナウイルス感染症の流行状及び行政による感染拡大防止対策を共有するとともに、活動の進捗や課題について議論を行った。</p> <p>① 地区レベル諮問委員会（Rural Municipality Level Project Advisory Committee: RMPAC）調整会議  <b>【開催回数】</b>4回（2020年8月、9月、11月、2021年2月）  <b>【出席者】</b>ガダワ地区長、保健担当官、社会開発担当官、地区内全8区の代表者など、延べ44名</p> <p>② 郡レベル諮問委員会（District Level Project Advisory Committee: DPAC）調整会議  <b>【開催回数】</b>1回（2021年2月）  <b>【出席者】</b>郡開発局担当官、保健局担当官など、計20名</p> <p>③ 省庁レベル諮問委員会（Central Level Project Advisory Committee: CPAC）調整会議  <b>【開催回数】</b>1回（2021年1月）  <b>【出席者】</b>女性子ども高齢者省担当官、保健人口省担当官など、計16名</p> <p><b>0-2. 専門家・本部職員の派遣</b></p> <p>日本人評価専門家、本部事業統括、本部事業担当の各1名、1回ずつの派遣を計画していたが、日本人評価専門家と本部事業統括については新型コロナウ</p>

ウイルス感染拡大と、それに伴う移動規制に伴い派遣を中止した。本部事業担当については、2020年2月24日～3月4日に派遣を行い、事業運営状況のモニタリングや関係機関との面談などを行った。

## 1. 公的一次保健医療サービスの強化

### 1-1. ヘルスポストへの資機材供与

対象全4か所のヘルスポストにおいて、1年次に供与した31種114品の資機材の配置・使用状況にかかるモニタリングを、2回ずつ計8回実施した。モニタリングは、「ヘルスポスト運営管理委員会<sup>1</sup>」と事業スタッフが共同で行い、事業終了後は同委員会のみでモニタリングを継続できる体制の構築を促した。この他、事業スタッフが定期的にフォローアップを行い、供与資機材が適切に管理され、診察や分娩、検査等の保健医療サービスに使用されていることを確認した。一部破損が見つかった滅菌機については、業者に連絡し修理を依頼するよう助言した。

### 1-2. ヘルスポストスタッフの能力強化研修の開催

2021年1月、対象全4か所のヘルスポストにおいて2日間の「院内感染対策研修」を開催し（計8日間）、計58人（ヘルスポストスタッフ：43人、CHUスタッフ：15人）が受講した。ダン郡保健局担当官や近隣市の病院に所属する医療従事者を講師として招聘し、講義と実習を通じて、感染予防のための知識と技術（感染経路、手指衛生、消毒・殺菌や廃棄物管理を含む環境整備）の向上を図った。同研修の前後に実施したテストでは、正答率が7.7割から8.8割に増加し、参加者の知識向上が確認できた。

なお、計画していた「出産介助研修」、および「家族計画とカウンセリング研修」については、新型コロナウイルス感染拡大による規制のため本事業実施期間中に開催できず、3年次に延期することとした。

### 1-3. ORC<sup>2</sup>/CHUの建設

2020年1月から2月にかけて一般競争入札を行い、選定された建設業者と3月に契約を締結した。新型コロナウイルス感染拡大の影響で着工が約2か月遅れたが、6月から対象全4か所（ORC：2か所、コイラバスヘルスポスト管轄/CHU：2か所、ゴバルディヤヘルスポスト管轄）で建設を開始した。コロナ禍における行動規制の中、ガダワ地区行政から建設許可を取り付け、郡外から帰省していた青年層を労働者として動員できたことや、施行が早く進んだ地域の労働者が他の建設現場を手伝ったことが功を奏し、計画通り2021年1月にすべての建設を完了することができた。なお、2か所（カバリナカ集落、ムシナカ集落）に建設したORCの内、ムシナカ集落のものについては、ヘルスポスト職員や地元住民からの要望に基づき、トイレを建物の外に設置した。

2021年2月上旬、各施設において、管轄区行政への譲渡式典を開催した。なお、本事業スタッフとともに施行状況モニタリングを担った「建設管理委員会」（区長やFCHVを含む地元住民7人～11人で構成）は、今後は「運営管理委員会」として各ORC/CHUの維持管理に取り組む。

### 1-4. ORC/CHUへの資機材供与

活動1-3で建設した4か所のORC/CHUに対し、計34種171品の資機材を供与した。供与の際、事業スタッフが必要に応じて使用・管理方法などの指導を行った。施設別の供与資機材は以下の通り。

<sup>1</sup> ヘルスポストの運営管理を担う住民により構成された委員会。ネパール政府保健人口省の規定により、全ヘルスポストに設立することが義務付けられている。ヘルスポストの運営方針の協議や課題解決、年次計画策定とその実行状況モニタリングなどの業務にあたる。

<sup>2</sup> アウトリーチクリニック（Outreach Clinic）の略。ヘルスポスト職員が毎月2回、遠隔集落に向いて乳幼児への予防接種や体重測定、妊産婦検診などのサービスを提供するもの。

資機材	供与先	ORC① (コ イハス)	ORC② (コ イハス)	CHU① (コハル テイ)	CHU② (コハル テイ)	計
1. 診察ベッド&カーテン		1	1	1	1	4
2. 脚立		1	1	1	1	4
3. 診察椅子		2	2	3	3	10
4. 事務机		2	2	4	4	12
5. ベンチ		1	1	3	3	8
6. 患者用椅子		2	2	3	3	10
7. スチール製戸棚		1	1	4	3	9
8. 血圧計		2	2	2	2	8
9. 聴診器		2	2	2	2	8
10. 体温計		2	2	3	3	10
11. 医療用ペンライト		1	1	1	1	4
12. 舌圧子		2	2	2	2	8
13. 体重計 (大人用)		1	1	1	1	4
14. 体重計 (小児用)		1	1	1	1	4
15. 産科聴診器		1	1	1	1	4
16. 胎児心音計		0	0	1	1	2
17. 医薬品棚		1	1	2	2	6
18. 水フィルター		0	0	1	1	2
19. 滅菌処置セット		2	2	2	2	8
20. 縫合セット		2	2	2	2	8
21. 滅菌テーブル		1	1	1	1	4
22. 消毒貯槽		2	2	2	2	8
23. 耳鼻咽喉検査器具		0	0	1	1	2
24. 滅菌機		0	0	1	1	2
25. 点滴スタンド		0	0	2	2	4
26. 薬品用冷蔵庫		0	0	1	1	2
27. 遠心分離機		0	0	1	1	2
28. 色測定器		0	0	1	1	2
29. 顕微鏡		0	0	1	1	2
30. ローテーター <sup>3</sup>		0	0	1	1	2
31. マイクロピペット <sup>4</sup> 20-200		0	0	1	1	2
32. マイクロピペット 200-1000		0	0	1	1	2
33. マイクロピペット 10		0	0	1	1	2
34. タイマー		0	0	1	1	2
合計		30	30	56	55	171

この他、地区行政が独自の予算で新設したものの、資機材調達のめどが立って  
いなかった2か所のCHU(ガダワヘルスポスト管轄およびガンガパラスプルヘル  
スポスト管轄)に計12種26品の資機材を供与した。

資機材	供与先	CHU (ガダワ)	CHU (ガンガパ ラスプル)	計
1. 診察ベッド		1	0	1
2. 診察ベッド用カーテン		1	1	2
3. 脚立		1	0	1
4. 診察椅子		1	1	2
5. 事務机		2	2	4
6. 患者用椅子		1	1	2
7. スチール製戸棚		0	2	2
8. 胎児心音計		1	1	2
9. 医薬品棚		2	2	4
10. 水フィルター		1	1	2
11. 耳鼻咽喉検査器具		1	1	2
12. 滅菌機		1	1	2

<sup>3</sup> 検査の際、マイクロチューブや遠沈管を転倒攪拌したり、試験管やバイアル瓶を回転させたりするための医療器具。

<sup>4</sup> 検査の際、微量の液体を測り取る際に使う医療器具。

### 1-5. ORC/CHUの運営支援

ヘルスポストが遠隔集落にて月2回実施するORCサービスに、本事業スタッフが計84回参加し、延べ2,710人の患者に対するORCサービス提供に係る技術支援を行った。ORCでは子どもの成長モニタリングや予防接種についての記録管理、処方薬の配布と在庫管理など、モニタリング中に気づいた具体的な事柄を挙げ、改善策とそのメリットを併せて提示することで、ヘルスポストスタッフが取り組みやすいよう工夫した。また、上述の活動1-3、1-4に関して、建設した各ORC/CHUの稼働状況、供与した資機材や薬剤の管理状況についても継続したモニタリングを行い、必要に応じて、滅菌機の適正な温度設定や顕微鏡の維持管理などの技術指導を行った。

### 1-6. FCHV能力強化研修の開催

2020年11月から2021年1月にかけて、4日間の「FCHV能力強化研修」を対象4か所のヘルスポストごとに開催し（計16日間）、全83人のFCHVの内81人がこれに参加した。「新型コロナウイルス感染症」に始まり、「妊娠と出産」「産後ケア」「栄養」「家族計画」など、ネパール政府策定のFCHV用教本に定められた17のテーマに沿って、本事業スタッフの他、ガダワ地区の保健担当官やヘルスポストスタッフが研修講師を務めた。講義では、事業で制作したポスター教材や映像（事業スタッフが様々な役に扮しビデオ撮影したもの）を用い、受講者であるFCHVが具体的なイメージを描けるよう工夫した。使用した手描きのポスターは、印刷してラミネート加工したものを保健医療施設やFCHVに配布し、長期的な活用を促した。

この他、FCHVが自身の集落で効果的に啓発活動（活動2-1）を実施することができるよう、ゲームやロールプレイ、劇などを取り入れ、ファシリテーション・教授方法のスキルアップを図った。

なお、やむなく欠席した2人のFCHVには、後日、本事業スタッフが個別指導を行った。

### 1-7. リプロダクティブ・ヘルスカンパニ

新型コロナウイルス感染症の影響により、医療従事者の招聘元となる予定であった病院において、日程調整と人材確保が困難となったため、本活動の開催を中止した。

## 2. 地域住民の母子保健知識向上

### 2-1. 母子保健啓発活動

地域住民における母子の健康に関する知識向上を目的として、「妊産婦健診」「出産準備」「予防接種」「家族計画」「栄養」「衛生」などをテーマとした複数の啓発活動を実施した。母親グループメンバーや妊産婦など対象を特定する活動（下記表①～③）と、幅広い年齢層を対象とした活動（下記表④～⑥）を並行して行うことで、より多くの地域住民が知識を得ることができるよう工夫した。

活動	内容
①母親グループ月例ミーティングでのワークショップ	ガダワ地区で活動している83の母親グループ（メンバー数：2,228人）の月例ミーティングにおいて、本事業スタッフのサポートのもと、FCHVによる母子保健ワークショップが222回行われた。
②妊婦対象ワークショップ	母親グループのメンバーに限らず、妊婦一般を対象としたワークショップを38回開催した。ワークショップには、家族の誰かと必ず一緒に参加するよう促し、同行した夫や姑、義姉など（参加者数：延べ481人）に対しても、妊婦を支える家族として周産期のサポートに対する理解を深めるよう工夫した。その結果、過去に一度も保健医療サービスを受けたことがなかった妊婦16人が、妊婦健診を受診するようになった。
③ORCでのレクチャー	活動1-5で支援したORCサービスの会場で、事業スタッフが計84回の保健啓発レクチャーを開催し、ORCを訪れていた母親など延べ1,922人が参加した。
④国際・国内記念日	「月経衛生の日（2020年5月）」、「母乳育児週間（2020年8

イベント	月)」、「家族計画の日(2020年9月)」、「FCHVの日(2020年12月)」に合わせ、地区行政やFCHVと共同でイベント(集落のラリーやワークショップ、拡声器と車両を使用した周回啓発)を実施し、青少年を含む幅広い層にアプローチした。
⑤ラジオ	地元ラジオ局と協力し、本事業の活動や関係者インタビューを内容に盛り込んだ番組を、月2回(計16回)放送した(30分/回)。番組内では母子保健知識に関するクイズコーナーを設け、リスナーが電話やSMSで回答に参加できるようにしたところ、96人のリスナーが参加した。 また、事業スタッフが監修したジングル(短い啓発メッセージ)をネパール語および地元言語(タルー語)で毎日10回流し、予防接種や妊娠中の危険兆候などについての啓発を行った。
⑥新聞	地元新聞に週3回(計107回)、周産期ケアに係る広告を掲載した(発行部数:10,000部/日)。

## 2-2. 啓発パンフレットの作成と配布

母子保健に係る情報と知識の浸透を目的に、妊産婦健診の内容や受診回数・時期などを掲載した啓発パンフレット2種の作成・配布と、塗装広告を行った。当初計画では塗装広告は含まれていなかったが、コロナ禍での感染拡大予防策を踏まえたうえで、より多くの人々への情報・知識の普及を図ることとした。各ツールの数と内容は以下の通り。

ツール	配布・掲示先と数	主な内容
パンフレット①	活動1-3で建設したORC/CHU管轄地域の居住者1,000人	公的保健医療施設が提供するサービス内容、妊産婦健診、妊娠中の危険な兆候、出産準備、安全な出産
パンフレット②	ヘルスポストやORC患者1,200人	本事業の活動内容
塗装広告	集会所や店舗などの壁17か所(32,152人の居住地域)	栄養、妊産婦健診、妊娠中の危険な兆候、出産準備、周産期ケア、予防接種、家族計画、衛生

(3) 達成された成果	<p><b>【「期待される成果」に対する達成度】</b> 今年次の目標の達成度は以下の通りである。</p> <p><b>成果1「公的・一次保健医療サービスが強化される」</b> 指標①:1年次にヘルスポストへ供与した資機材、ならびに本事業でORCとCHUへ供与した資機材が、患者に対する診察・治療・処方等の保健医療サービス提供時に活用されている。 ➤達成。活動1-1で実施したモニタリングを通じて、すべてのヘルスポストにおいて供与資機材が保健医療サービスの提供に活用されていることを確認した。</p> <p>指標②:ヘルスポストスタッフ能力強化研修事後テストの正答率が8割以上になる。 ➤一部達成。「院内感染対策研修」時、研修事前テストで7.7割だった全体平均正答率は、事後テストで8.8割に上昇したが、新型コロナウイルス感染症の影響で3年次に延期した研修を実施した後に、改めて全体の達成度を測定する。</p> <p>指標③:FCHV能力強化研修事後テストの正答率が8割以上になる。 ➤達成。研修を受講したFCHVの全体平均正答率が、研修事前テストの4.8割から事後テストで9.4割になった。</p> <p><b>成果2「地域住民の母子保健知識が向上する」</b></p>
-------------	--

指標①：母子保健啓発活動に参加した住民の正答率が8割以上になる。

- 一部達成。活動2-1の「②妊婦対象ワークショップ」において、正答率8割以上を達成した参加者が、事前テストでは46%であったところ、事後テストでは95%に増加した。

指標②：保健啓発ツールを全配付対象者が受け取る。

- 概ね達成。パンフレットの実際の配布枚数(2,200枚)は、計画枚数(6,390枚)に満たなかったが、塗装広告の推計裨益者数を含めることにより、全対象者にツールが提供されたと言える。

なお、プロジェクト目標である「ダン郡ガダワ地区において母子の基礎保健医療サービスへのアクセスが改善する」に対応する指標については、ネパール政府の「保健管理情報システム」を参照し、今年次における達成度を確認した。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、公的保健医療サービスの提供と利用が減少したことが要因となり、一部指標の低下が見受けられたものの、第4回妊婦健診受診率は、全区において目標値を達成した。事業最終年次の活動を通じて、全体的な底上げを図りながら、上位目標「ダン郡ガダワ地区における母子の健康格差が是正される」ことを目指したい。

①全区の第1回妊婦健診受診率が90%（申請時ダン郡平均値）を超える。

- 達成区：なし
- 未達成区：ガダワ区（申請時102%→本報告時85%、以下同）、ガンガパラスプル区（85%→64%）、ゴバルディヤ区（58%→77%）、コイラバス区（140%→70%）

申請時より受診率がさがっている要因のひとつとして、コロナ禍での受診控えがあげられる。特に第1回妊産婦検診については、その傾向が顕著にみられた。

②全区の第4回妊婦健診受診率が51.5%（申請時地区平均値）を超える。

- 達成区：全区。ガダワ区（74%→85%）、ガンガパラスプル区（77%→69%）、ゴバルディヤ区（20%→58%）、コイラバス区（35%→74%）
- 未達成区：なし

③全区の妊婦鉄剤受給率が53%（申請時地区平均値）を超える。

- 達成区：ガダワ区（74%→85%）、ガンガパラスプル区（81%→69%）、コイラバス区（30%→85%）
- 未達成区：ゴバルディヤ区（25%→50%）

④全区の予防接種（BCG）受診率が88%（申請時地区平均値）を超える。

- 達成区：ガダワ区（94%→101%）、ガンガパラスプル区（67%→91%）
- 未達成区：ゴバルディヤ区（73%→86%）、コイラバス区（119%→77%）

⑤全区の予防接種（DPT、Hep B、Hib 3）接種率が79%（申請時地区平均値）を超える。

- 達成区：なし
- 未達成区：ガダワ区（92%→70%）、ガンガパラスプル区（64%→63%）、ゴバルディヤ区（70%→74%）、コイラバス区（89%→73%）

⑥全区の予防接種（Measles/Rubella）接種率が78%（申請時地区平均値）を超える。

- 達成区：ガダワ区（93%→96%）、ガンガパラスプル区（65%→85%）、ゴバル

	<p>ディヤ区 (71%→80%)        ▶ 未達成区：コイラバス区 (81%→44%)</p> <p><b>【SDGs に該当する目標における成果の視点】</b>        本事業は、SDGs の 17 の目標のうち、主に以下の目標達成に貢献している。  <u>目標 3「あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する」</u>        本事業では、母子保健に係る公的保健医療サービスの質の向上、および地域住民への知識普及を通じて、妊産婦死亡率（目標 3.1）、乳幼児死亡率の削減（目標 3.2）、また、質の高い基礎的な保健サービスや効果的なワクチンへのアクセスの改善（目標 3.8）に取り組むことで、母子の健康的な生活を確保することに貢献している。</p> <p><u>目標 10「各国内及び各国間の不平等を是正する」</u>        本事業は、新生児死亡率がネパール全 7 州の内 2 番目に高く、最も低い州の 2 倍にも上るなど、ネパール国内でも母子保健指標が低い地域を対象としており、ネパール国内の不平等是正に貢献しているといえる。</p>
<p>(4) 持続発展性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本事業で実施する全ての活動は、ガダワ地区行政、対象各区行政の政策大綱に沿って計画されており、行政政策との整合性を高めることで、事業成果の持続発展性を担保している。</li> <li>・ 各行政レベル（中央、郡、地区）で諮問委員会の調整会議を開催するなど、行政関係機関との密接な連携のもとで事業を実施することができた。特に、地区レベル諮問委員会調整会議（活動 0-1）の第 4 回目においては、行政スタッフに加えて、ヘルスポストスタッフや地域住民代表からなるヘルスポスト運営管理委員会メンバーも参加し、ガダワ地区の母子保健課題と解決策について活発な意見交換が行われた。引き続き、行政と保健医療施設関係者および住民間の交流が継続され、保健医療サービスの質の向上に繋げられるよう働きかけていく。</li> <li>・ 供与した資機材および建設された施設（活動 1-1、1-3、1-4）については、ヘルスポスト運営管理委員会が使用／管理状況をモニタリングする体制の構築が進んでいる。</li> <li>・ 「院内感染対策研修」（活動 1-2）の受講者であるヘルスポストスタッフは本事業対象郡内在住のスタッフである他、公的保健医療サービスと地域住民をつなぐ鍵となる FCHV は、ガダワ地区内集落の住民であり、勤続年数は 10～30 年と長期にわたる。そのため、彼（彼女）らが習得した知識や技術が事業後も対象地区で活かされることが期待できる。</li> <li>・ 既存の母親グループの定例ミーティングに保健啓発活動を取り入れたことにより、保健知識の習得と普及の基盤を構築できた。3 年次も、FCHV の能力強化と母親グループメンバーの活性化に取り組み、更に持続発展性を高めていきたい。</li> </ul>